

入力シート

プロジェクト名 **廃水処理**

赤字はデフォルト値

1. 事業実施前の情報

BE_{EC,y} : 事業実施前の電力消費によるGHG排出量

BE_{FC,y} : 事業実施前の燃料消費によるGHG排出量

(1) 事業実施前の電力・燃料消費量(MWh/y)

実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
事業実施前の電気使用量	500	MWh/y
事業実施前の燃料使用量	石油	500 kL/y
	石炭	50 t/y
	ガス	100 m ³ /y
	その他	

(2) 一般的な発電所のCO₂排出係数(t-CO₂/MWh)

一般的な発電所の選定及び当該発電所の排出係数については、以下の順でデータの入手可能性を検証し

- i) 電力運営管理主体のインタビュー
- ii) 当該国の公表値

項目	入力欄	単位
一般的な発電所のCO ₂ 排出係数	0.896	t-CO ₂ /MWh

出所: ●●国○○会社のインタビューによる

(3) 燃料種毎の単位発熱量(TJ/Gg)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- i) 電力運営管理主体のインタビューによる当該事業の固有データ
- ii) 当該国の公表値
- iii) IPCCガイドライン デフォルト値

項目	単位発熱量		CO ₂ 排出係数	
石油	36.3	GJ/kL	73.3	t-CO ₂ /TJ
石炭	26.7	GJ/t	98.3	t-CO ₂ /TJ
ガス	0.0384	GJ/m ³	56.1	t-CO ₂ /TJ
その他				t-CO ₂ /TJ

出所: ●●へのインタビューによる

2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories Volume 2 Energy table1.2,table2.2

BE_{ww,t,y} : 事業実施前の廃水処理によるGHG排出量

(1) 事業実施前の処理廃水量(m³)

実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処理廃水量	200,000	m ³ /y

(2) 事業実施前の廃水処理により除去されるCOD濃度(t-COD/m³)

実測値を以下のセルに入力する。

処理前後の廃水のCODの差として計測される。

項目	入力欄	単位
除去されるCOD濃度	0.050000	t-COD/m ³

1 t/m³=1,000,000 mg/L

(3) 事業実施前の廃水処理のCH₄補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表)を用いる。

項目	入力欄	単位
廃水処理のCH ₄ 補正係数	0.8	-

(4) 廃水のCH₄生成能力(kg-CH₄/kg-COD)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.25を用いる。

項目	入力欄	単位
廃水のCH ₄ 生成能力	0.25	kg-CH ₄ /kg-COD

BE_{s,t,y} : 事業実施前の汚泥処理によるGHG排出量

(1) 事業実施前の処理汚泥の乾燥重量(t)

実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処理汚泥の乾燥重量	954	m ³ /y

事業実施前において廃水処理を行っていなかった場合(汚泥が発生していなかった場合)は以下の項目に入力する。

項目	入力欄	単位
事業実施前の廃水処理によるCOD除去量に対する汚泥生成割合	0	t-汚泥/t-COD
事業実施後の廃水処理によるCOD除去量に対する汚泥生成割合	0	t-汚泥/t-COD

(2) 事業実施前の汚泥処理におけるメタン補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表)を用いる。

項目	入力欄	単位
汚泥処理におけるメタン補正係数	0.8	-

(3) 未処理汚泥の分解性有機物の含有割合(乾燥重量ベース)(-)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- i) 当該国の公表値
- ii) IPCCガイドライン デフォルト値

項目	入力欄	単位
汚泥中の分解性有機物の含有割合	0.5	-

(4) バイオガスに異化される分解性有機物(DOC)の含有割合(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
異化される分解性有機物の含有割合	0.5	-

(5) バイオガス中のCH₄割合(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
バイオガス中のCH ₄ 割合	0.5	-

BE_{ww,d,y} : 事業実施前の廃水の放水によるGHG排出量

(1) 放水されている処理済及び未処理の廃水量(m³)

実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
放水されている廃水の量	70,000	m ³ /y

(2) 事業実施前における海洋・河川・湖沼に放水される廃水のCOD濃度(t/m³)

実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
廃水のCOD濃度	0.000500	t/m ³

1 t/m³=1,000,000 mg/L

(3) 廃水のCH₄生成能力(kg-CH₄/kg-COD)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.25を用いる。

項目	入力欄	単位
廃水のCH ₄ 生成能力	0.25	kg-CH ₄ /kg-COD

(4) 事業実施前での廃水の放水経路のCH₄補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表)を用いる。

項目	入力欄	単位
放水経路のCH ₄ 補正係数	0.1	-

BE_{s,f,y} : 事業実施前の汚泥の腐敗によるGHG排出量

(1) 事業実施前に埋立処分される汚泥の乾燥重量(t/y)

実測値を以下のセルに入力する

項目	入力欄	単位
汚泥の乾燥重量	10,000	t/y

(2) 未処理汚泥の分解性有機物の含有割合(乾燥重量ベース)(-)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- i) 当該国の公表値
- ii) IPCCガイドライン デフォルト値

項目	入力欄	単位
汚泥中の分解性有機物の含有割合	0.5	-

(3) 事業実施前に汚泥を受け入れる廃棄物処分場のCH₄補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表参照)を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処分場におけるCH ₄ 補正係数	0.8	-

(4) バイオガスに異化される分解性有機物の含有割合(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
異化される分解性有機物の含有割合	0.5	-

(5) 処分場から排出するバイオガス中のCH₄割合

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
バイオガス中のCH ₄ 割合	0.5	-

BE_{EN}: 事業実施後の発電・熱供給量を従来の方法で生産した場合に発生するCO₂排出量

(1) 事業実施後の発電・熱供給量(MWh/y)

事業実施前の算定時には計画値を、事業実施後の算定時には実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
事業実施後のバイオマス利用による発電量	1,000	MWh/y
事業実施後のバイオマス利用による熱供給量	100	TJ/y

(2) 一般的な発電所のCO₂排出係数(t-CO₂/MWh)

一般的な発電所の選定及び当該発電所の排出係数については、以下の順でデータの入手可能性を検証し

- i) 電力運営管理主体のインタビュー
- ii) 当該国の公表値

項目	入力欄	単位
一般的な発電所のCO ₂ 排出係数	0.896	t-CO ₂ /MWh

出所: ●●国○○会社のインタビューによる

(3) 熱量のCO₂排出係数(t-CO₂/TJ)

項目	入力欄	単位
事業が実施されない場合に使用されるボイラー燃料のCO ₂ 排出係数	73.3	t-CO ₂ /TJ
ボイラーの効率	100	%
バイオマス残さが利用され供給される熱量のうち、事業が実施されない場合にボイラーから供給される熱量の割合	1	-
熱量あたりのCO ₂ 排出係数	73.3	t-CO ₂ /TJ

出所: 2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories Volume 2 Energy table2.2

2. 事業実施後に係る情報

PE_{EC,y} : 事業実施後の電力消費によるGHG排出量

PE_{FC,y} : 事業実施後の燃料の消費によるGHG排出量

(1) 事業実施後の電力及び燃料の消費量(MWh/y)

事業実施前の算定時には計画値を、事業実施後の算定時には実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
事業実施後の電気使用量	500	MWh/y
事業実施後の燃料使用量	石油	500 kL/y
	石炭	50 t/y
	ガス	100 m ³ /y
	その他	

(2) 一般的な発電所のCO₂排出係数(t-CO₂/MWh)

一般的な発電所の選定及び当該発電所の排出係数については、以下の順でデータの入手可能性を検証し用いる。

- 電力運営管理主体のインタビュー
- 当該国の公表値

項目	入力欄	単位
グリッド接続している電力のCO ₂ 排出係数	0.896	t-CO ₂ /MWh

出所: ●●国○○会社のインタビューによる

(3) 燃料種毎の単位発熱量(TJ/Gg)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- 電力運営管理主体のインタビューによる当該事業の固有データ
- 当該国の公表値
- IPCCガイドライン デフォルト値

項目	単位発熱量	CO ₂ 排出係数
石油	36.3 GJ/kL	73.3 t-CO ₂ /TJ
石炭	26.7 GJ/t	98.3 t-CO ₂ /TJ
ガス	0.0384 GJ/m ³	56.1 t-CO ₂ /TJ
その他		t-CO ₂ /TJ

出所: ●●へのインタビューによる

2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories Volume 2 Energy table 1.2, table 2.2

PE_{ww,t,y} : 事業実施後の廃水処理によるGHG排出量

(1) 事業実施後の処理廃水量(m³)

事業実施前は計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処理廃水量	70,000	m ³ /y

(2) 事業実施後の廃水処理により除去されるCOD濃度(t-COD/m³)

事業実施前は計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する。

処理前後の廃水のCODの差として計測される。

項目	入力欄	単位
除去されるCOD濃度	0.000450	t-COD/m ³

1 t/m³=1,000,000 mg/L

(3) 事業実施後の廃水処理のCH₄補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表)を用いる。

項目	入力欄	単位
廃水処理のCH ₄ 補正係数	0.8	-

(4) 廃水のCH₄生成能力(kg-CH₄/kg-COD)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.25を用いる。

項目	入力欄	単位
廃水のCH ₄ 生成能力	0.25	kg-CH ₄ /kg-COD

PE_{s,t,y} : 事業実施後の汚泥処理によるGHG排出量(コンポスト化以外の場合)

(1) 事業実施後の処理汚泥の乾燥重量(t)

事業実施前は計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処理汚泥の乾燥重量	70,000	m ³ /y

(2) 事業実施後の汚泥処理におけるメタン補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表)を用いる。

項目	入力欄	単位
汚泥処理におけるメタン補正係数	0.0	-

(3) 未処理汚泥の分解性有機物の含有割合(乾燥重量ベース)(-)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- i) 当該国の公表値
- ii) IPCCガイドライン デフォルト値

項目	入力欄	単位
汚泥中の分解性有機物の含有割合	0.5	-

(4) バイオガスに異化される分解性有機物(DOC)の含有割合(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
異化される分解性有機物の含有割合	0.5	-

(5) バイオガス中のCH₄割合(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
バイオガス中のCH ₄ 割合	0.5	-

PE_{s,t,y} : 事業実施後の汚泥処理によるGHG排出量(コンポスト化の場合)

(1) 事業実施後にコンポスト化される汚泥の乾燥重量(t/y)

事業実施前の算定時には計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する

項目	入力欄	単位
汚泥の乾燥重量		t/y

(2) 汚泥のコンポスト化のCH₄排出係数(t-CH₄/t-汚泥)

事業実施前は、当該事業固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、用いる。

- i) 当該国の公表値
- ii) IPCCガイドライン デフォルト値(0.01)

事業実施後は当該施設の計測値とする。

項目	入力欄	単位
コンポスト化における排出係数	0.01	t-CH ₄ /t-汚泥

PE_{ww,dy} : 事業実施後の廃水の放水によるGHG排出量

(1) 放水されている処理済及び未処理の廃水量(m³)

事業実施前は計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
放水されている廃水の量	70,000	m ³ /y

(2) 事業実施後における海洋・河川・湖沼に放水される廃水のCOD濃度(t/m³)

事業実施前は計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
廃水のCOD濃度	0.000050	t/m ³

1 t/m³=1,000,000 mg/L

(3) 廃水のCH₄生成能力(kg-CH₄/kg-COD)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.25を用いる。

項目	入力欄	単位
廃水のCH ₄ 生成能力	0.25	kg-CH ₄ /kg-COD

(4) 事業実施後での廃水の放水経路のCH₄補正係数(-)

IPCCガイドラインのデフォルト値(別表)を用いる。

項目	入力欄	単位
放水経路のCH ₄ 補正係数	0.1	-

PE_{s,f,y} : 事業実施後の汚泥の腐敗によるGHG排出量

(1) 事業実施後に埋立処分される汚泥の乾燥重量 (t/y)

事業実施前の算定時には計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する

項目	入力欄	単位
汚泥の乾燥重量	0	t/y

(1) 未処理汚泥の分解性有機物の含有割合 (乾燥重量ベース) (-)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- i) 当該国の公表値
- ii) IPCCガイドライン デフォルト値

項目	入力欄	単位
汚泥中の分解性有機物の含有割合	0.5	-

(2) 事業実施後に汚泥を受け入れる廃棄物処分場のCH₄補正係数 (-)

IPCCガイドラインのデフォルト値 (別表参照) を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処分場におけるCH ₄ 補正係数	0.8	-

(3) バイオガスに異化される分解性有機物の含有割合 (-)

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
異化される分解性有機物の含有割合	0.5	-

(4) 処分場から排出するバイオガス中のCH₄割合

IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
バイオガス中のCH ₄ 割合	0.5	-

4. その他条件

(1) モデルの不確実性に関する補正係数 (事業実施前) (-)

デフォルト値として0.94とする。

項目	入力欄	単位
モデル補正係数 (デフォルト値)	0.94	-

(2) モデルの不確実性に関する補正係数 (事業実施後) (-)

デフォルト値として1.06とする。

項目	入力欄	単位
モデル補正係数 (デフォルト値)	1.06	-

	入力欄
	出典等の入力欄

計算結果シート

廃水処理

事業実施によるGHG排出削減量 (t-CO₂/y)

$$ER_y = BE_y - PE_y \text{ (t-CO}_2\text{/y)}$$

1. ベースライン排出量 $BE_y = BE_{EC,y} + BE_{FC,y} + BE_{ww,t,y} + BE_{s,t,y} + BE_{ww,d,y} + BE_{s,f,y} + BE_{EN,y}$

BE_y	ベースライン排出量: 事業実施前のGHG排出量	70,237	t-CO ₂ /y
$BE_{EC,y}$	事業実施前の電力消費によるGHG排出量	448	t-CO ₂ /y
$BE_{FC,y}$	事業実施前の化石燃料の消費によるGHG排出量	1,462	t-CO ₂ /y
$BE_{ww,t,y}$	事業実施前の排水処理によるGHG排出量	39,480	t-CO ₂ /y
$BE_{s,t,y}$	事業実施前の汚泥処理によるGHG排出量	2,510	t-CO ₂ /y
$BE_{ww,d,y}$	事業実施前の海洋・河川・湖沼への排水の放水によるGHG排出量	17	t-CO ₂ /y
$BE_{s,f,y}$	事業実施前の汚泥の腐敗によるGHG排出量 事業実施前において、以下の場合には本項目は無視する。 ・汚泥が管理焼却される場合 ・バイオガス回収を伴う埋立処分場に投棄される場合 ・土壌散布に利用される場合	26,320	t-CO ₂ /y
$BE_{EN,y}$	事業実施後の発電・熱供給量を従来の方法で生産した場合に発生するCO ₂ 排出量	8,226	t-CO ₂ /y

2. プロジェクト排出量 $PE_y = PE_{EC,y} + PE_{FC,y} + PE_{ww,t,y} + PE_{s,t,y} + PE_{ww,d,y} + PE_{s,f,y}$

PE_y	プロジェクト排出量: 事業実施後のGHG排出量	2,052	t-CO ₂ /y
$PE_{EC,y}$	事業実施後の電力消費によるGHG排出量	448	t-CO ₂ /y
$PE_{FC,y}$	事業実施後の化石燃料の消費によるGHG排出量	1,462	t-CO ₂ /y
$PE_{ww,t,y}$	事業実施後の排水処理によるGHG排出量 事業実施後において、処理過程で発生したCH ₄ を回収し、発電・熱供給する場合、あるいはフレア処理する場合は本項目は無視する	140	t-CO ₂ /y
$PE_{s,t,y}$	事業実施後の汚泥処理によるGHG排出量 事業実施後において、処理過程で発生したCH ₄ を回収し、発電・熱供給する場合、あるいはフレア処理する場合は本項目は無視する	0	t-CO ₂ /y
$PE_{ww,d,y}$	事業実施後の海洋・河川・湖沼に放水される処理済排水または未処理排水に含まれる分解性有機炭素によるGHG排出量	2	t-CO ₂ /y
$PE_{s,f,y}$	事業実施後の生成される汚泥の腐敗によるGHG排出量 事業実施前において、以下の場合には本項目は無視する ・汚泥が管理焼却される場合 ・バイオガス回収を伴う埋立処分場に投棄される場合 ・土壌散布に利用される場合	0	t-CO ₂ /y

3. 事業実施によるGHG排出削減量 $ER_y = BE_y - PE_y \text{ (t-CO}_2\text{/y)}$

ER_y	事業実施によるGHG排出削減量	68,185	t-CO ₂ /y
BE_y	ベースライン排出量: 発電機の効率が悪い状態のGHG排出量	70,237	t-CO ₂ /y
PE_y	プロジェクト排出量: 事業実施後のGHG排出量	2,052	t-CO ₂ /y

入力シート

プロジェクト名 **例: 下水道**

赤文字はデフォルト値

1. 事業実施前の情報

BE_{CH4,Sy} : 事業実施前の下水汚泥の腐敗によるGHG量

(1) 未処理汚泥の分解性有機物の含有割合(乾燥重量ベース)(-)
 IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5(家庭排水汚泥)とする。

項目	入力欄	単位
汚泥中の分解性有機物の含有割合	0.5	-

(2) 事業実施前に下水汚泥を受け入れる廃棄物処分場のCH₄補正係数(-)
 IPCCガイドラインのデフォルト値(別表参照)を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
処分場におけるCH ₄ 補正係数	1.0	-

(3) バイオガスに異化される分解性有機物の含有割合(-)
 IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
異化される分解性有機物の含有割合	0.5	-

(4) 処分場から排出するバイオガス中のCH₄割合
 IPCCガイドラインのデフォルト値として0.5とする。

項目	入力欄	単位
バイオガス中のCH ₄ 割合	0.5	-

2. メタン発電・熱供給に係る情報

BE_{EN} : 事業実施後の発電・熱供給量を従来の方法で生産した場合に発生するCO₂排出量

(1) 事業実施後のバイオガス利用による発電・熱供給量(MWh/y)
 事業実施前の算定時には計画値を、事業実施後の算定時には実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
事業実施後のバイオガス利用による発電量	1,000	MWh/y
事業実施後のバイオガス利用による熱供給	100	TJ/y

(2) 一般的な発電所のCO₂排出係数(t-CO₂/MWh)

一般的な発電所の選定及び当該発電所の排出係数については、以下の順でデータの入手可能性を検証している。

- i) 電力運営管理主体のインタビュー
- ii) 当該国の公表値

項目	入力欄	単位
一般的な発電所のCO ₂ 排出係数	0.896	t-CO ₂ /MWh

出所: ●●国〇〇会社のインタビューによる

(3) 熱量のCO₂排出係数(t-CO₂/TJ)

項目	入力欄	単位
事業が実施されない場合に使用されるボイラー燃料のCO ₂ 排出係数	73.3	t-CO ₂ /TJ
ボイラーの効率	100	%
バイオガスが利用され供給される熱量のうち、事業が実施されない場合にボイラーから供給される熱量の割合	1	-
熱量あたりのCO ₂ 排出係数	73.3	t-CO ₂ /TJ

出所: 2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories Volume 2 Energy table2.2

2. 事業実施後に係る情報

PE_{EC,y} : 事業実施後の電力消費によるGHG排出量

PE_{FC,y} : 事業実施後の燃料の消費によるGHG排出量

(1) 事業実施後の電力及び燃料消費量 (MWh/y)

事業実施前の算定時には計画値を、事業実施後の算定時には実測値を以下のセルに入力する。

項目	入力欄	単位
事業実施後の電気使用量	500	MWh/y
事業実施後の燃料使用量	石油	500 kL/y
	石炭	50 t/y
	ガス	100 m ³ /y
	その他	

(2) 一般的な発電所のCO₂排出係数 (t-CO₂/MWh)

一般的な発電所の選定及び当該発電所の排出係数については、以下の順でデータの入手可能性を検証し、用いる。

- i) 電力運営管理主体のインタビュー
- ii) 当該国の公表値

項目	入力欄	単位
一般的な発電所のCO ₂ 排出係数	0.896	t-CO ₂ /MWh

出所: ●●国〇〇会社のインタビューによる

(3) 燃料種毎の単位発熱量 (TJ/Gg)

当該国固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、以下のセルに入力する。

- i) 電力運営管理主体のインタビューによる当該事業の固有データ
- ii) 当該国の公表値
- iii) IPCCガイドライン デフォルト値

項目	単位発熱量	CO ₂ 排出係数
石油	36.3 GJ/kL	73.3 t-CO ₂ /TJ
石炭	26.7 GJ/t	98.3 t-CO ₂ /TJ
ガス	0.0384 GJ/m ³	56.1 t-CO ₂ /TJ
その他		t-CO ₂ /TJ

出所: ●●へのインタビューによる

2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories Volume 2 Energy table1.2, table2.2

PE_{CC,y} : 事業実施後の下水汚泥のコンポスト化によるGHG排出量

(1) 事業実施後にコンポスト化される下水汚泥の乾燥重量 (t/y)

事業実施前の算定時には計画値、事業実施後は実測値を以下のセルに入力する

項目	入力欄	単位
下水汚泥の乾燥重量	30,000	t/y

(2) 下水汚泥のコンポスト化のCH₄排出係数 (t-CH₄/t-汚泥)

事業実施前は、当該事業固有のデータ・情報を使って計算することが望ましいため、以下の順でデータの入手可能性を検証し、用いる。

- ① 当該国の公表値
- ② IPCCガイドライン デフォルト値 (0.01)

事業実施後は当該施設の計測値とする。

項目	入力欄	単位
コンポスト化における排出係数	0.01	t-CH ₄ /t-汚泥

4. その他条件

(1) 事業実施前において国の規制等により分解燃焼されているCH₄の割合(-)

途上国ではほとんど規制がないため、0とする

項目	入力欄	単位
分解燃焼されているCH ₄ の割合	0.00	-

(1) モデルの不確実性に関する補正係数(事業実施前)(-)

デフォルト値として0.94とする。

項目	入力欄	単位
モデル補正係数(デフォルト値)	0.94	-

	入力欄
	出典等の入力欄

計算結果シート

例：下水道

事業実施によるGHG排出削減量 (t-CO₂/y)

$$ER_y = BE_y - PE_y \text{ (t-CO}_2\text{/y)}$$

1. ベースライン排出量 $BE_y = BE_{CH_4,S,y} (1-AF) + BE_{EN}$

BE_y	ベースライン排出量： 下水汚泥の処分過程で発生したメタンが大気中に排出される場合のGHG排出量	106,926	t-CO ₂ /y
$BE_{CH_4,S,y}$	事業実施前の下水汚泥の腐敗によるGHG量	98,700	t-CO ₂ /y
AF	事業実施前において国の規制等により分解燃焼されているメタンガス量 <small>※上記ではほとんど規制がないため、0とする</small>	0	-
$BE_{EN,y}$	事業実施後における発電・熱供給量を従来の方法で生産した場合のCO ₂ 排出量	8,226	t-CO ₂ /y

2. プロジェクト排出量 $PE_y = PE_{EC,y} + PE_{FC,y} + PE_{C,y}$

PE_y	プロジェクト排出量： 事業実施後のGHG排出量	8,210	t-CO ₂ /y
$PE_{EC,y}$	事業実施後の電力消費によるGHG排出量	448	t-CO ₂ /y
$PE_{FC,y}$	事業実施後の燃料消費によるGHG排出量	1,462	t-CO ₂ /y
$PE_{C,y}$	事業実施後の下水汚泥の処理過程によるGHG排出量	6,300	t-CO ₂ /y

3. 事業実施によるGHG排出削減量 $ER_y = BE_y - PE_y$ (t-CO₂/y)

ER_y	事業実施によるGHG排出削減量	98,716	t-CO ₂ /y
BE_y	ベースライン排出量： 下水汚泥の処分過程で発生したメタンが大気中に排出される場合のGHG排出量	106,926	t-CO ₂ /y
PE_y	プロジェクト排出量： 事業実施後のGHG排出量	8,210	t-CO ₂ /y